



社会情勢 / 社会課題

日本の観光立国を推進し、国内経済の活性化につなげる。
世界的な成長産業である観光関連産業を日本経済の成長戦略の柱のひとつとして位置づけ、訪日外国人旅行客の飛躍的増加を実現するためのインフラやサービスを整備する必要がある。

長期ビジョン

外国人観光客が言葉や文化の違いによるストレスを感じずに快適に日本に滞在できるようにする。

東京大会での役割

海外からの来訪者の移動や会話に伴うストレスを軽減し、競技観戦や日本観光をもっと楽しめるようにする。

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

言語や文化の違いを超えて誰もが自由・快適に交流・観光できる新たなグローバル都市像の発信。

2 大会ホスピタリティ

言語や文化の違いを超えてすべての来訪者に同じ品質のおもてなしやサービスを提供できる。

3 シェアードバリュー

日本全国への当該インフラ整備により、訪日外国人観光客のさらなる獲得へつなげる。

2020年に向けたコンセプト

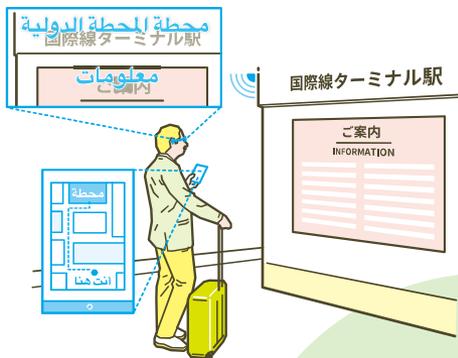
Hospitality Innovation 2020
スマートホスピタリティ

海外からの来訪者に、移動や会話に伴うストレスのない、やさしい誘導を

展開イメージ

2020東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに日本を訪れるすべての人が言語や文化の違いを超えて競技の感動や興奮を分かち合うことができる大会へ

国際線でもCAと
らくらく会話



乗りたい電車がすぐわかるから
目的地へスムーズに移動できる

Scene1 国際空港



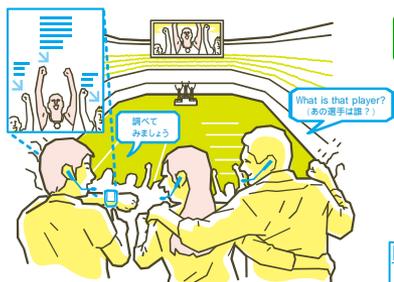
自動翻訳で
楽しいショッピング

ケガ人や急病人など
緊急時にも
スムーズに意思伝達



Scene2 街の中

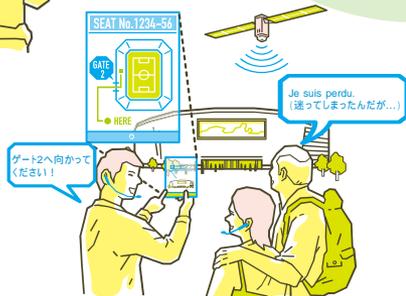
言語や文化を
超えてみんなで
競技観戦



Scene3 競技観戦

ボランティアスタッフが
多言語対応で
会場案内

ロボットたちが
大会運営を
サポート



Scene4 地方観光

地方への観光旅行も
言葉が通じれば
もっと楽しくなる



知らない街でも
穴場スポットがわかる楽しさ





社会情勢 / 社会課題

エボラ出血熱やデング熱等、世界中で深刻な感染症の発生が報告され、特定の国や地域で発生した感染症が短期間で世界中のあらゆる場所に広がりうる状況となっている。さらに昨今ではバイオテロなどの人為的リスクも強く認識されるようになってきた。国際化の進展に伴い、日本における感染症のリスクも高まっており、諸問題に対する喫緊の対応が必要である。

長期ビジョン

感染症対策の一層の強化により「さまざまな感染症の脅威から人びとの安全を確保した社会」を実現する。

感染症に関する医師等からの情報収集、専門家による解析、国民・医療関係者への情報提供および公開を行うことにより、感染症に対する有効かつ的確な予防対策を図り多様な感染症の発生・拡大を防止する。

東京大会での役割

感染症サーベイランスの徹底と強化により、大規模イベント開催時における感染症等の異常発生の早期探知と迅速な対応を行う。

3つの手段

- 1 ソーシャルインパクト**
大会前から、感染症への万全な体制を組んでいることを、広くPRしていく。
- 2 大会ホスピタリティ**
流行前からの事前情報や発生後の正確な情報などを、素早く国民等に届ける。
- 3 シェアードバリュー**
各自治体等への技術連携。

2020年に向けたコンセプト

Disease Information Innovation 2020
感染症サーベイランス強化

感染症の発生をすばやく察知・公開し、健康的な暮らしを守る

技術の概要

「感染症サーベイランス」で感染症の流行を迅速に探知し、情報を収集・分析します。



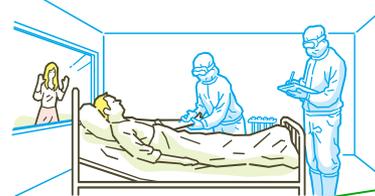
エボラ出血熱感染のリスクがある場合
海外渡航者に

感染症発生時には適切な対策を実施し拡大を防ぎます。

感染疑いのある海外渡航者を
空港や港でしっかりとチェック



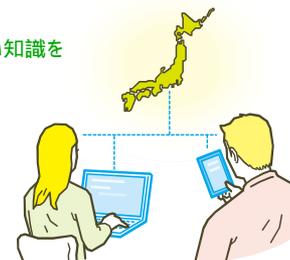
感染リスクが高い場合は
感染症指定医療機関へ搬送



感染リスクが低い場合も
一定の期間、健康監視を実施



感染発生状況や正しい知識を
広く国民に情報配信





社会情勢 / 社会課題

少子高齢化社会における
先進モデルとして発信し、
世界の問題解決へとつなげる。

世界的に進む高齢化の一方、高齢化先進国である日本は、高齢者に優しい社会像の提示が求められている。高齢者のみならず、障害者も含め、誰もが分け隔てなく同じように活動できる社会システムやサービス・機器の開発・整備が求められている。

長期ビジョン

障害者や高齢者、介護者や
要介護者など、全ての人々が快適に
過ごせるユニバーサルな
健康長寿社会の実現。

東京大会での役割

障害者や高齢者、すべての人が
自らの力で大会に参加し、
楽しめるようにする。

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

障害者・高齢者が分け隔てなく、
大会へ積極的に参加・活動している、
ユニバーサルな社会の姿を発信。

2 大会ホスピタリティ

障害者・高齢者をはじめ、
すべての人にやさしい真のバリア
フリーを感じるホスピタリティを提供。

3 シェアードバリュー

先進的なサービスや機器の発信により、
国内外での採用や開発スピードの
さらなる加速へつなぐ。

2020年に向けたコンセプト

New accessibility Innovation 2020

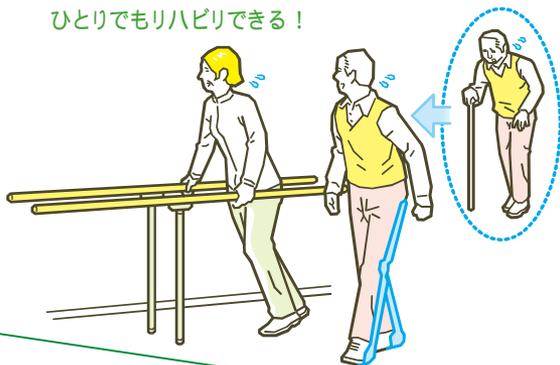
社会参加アシストシステム

障害者・高齢者が、健常者と同じように社会参加するアシストを

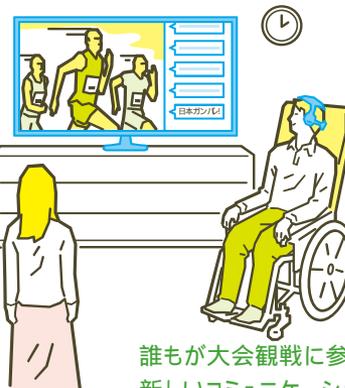
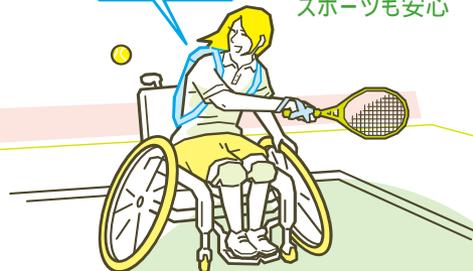
展開イメージ

障害の有無や年齢に関わらない社会参加の促進や大会観戦のサポートならびにパラリンピックアスリートの競技成績向上を実現するトレーニング技術や器具等を開発する

アシストスーツで
ひとりでもリハビリできる！



自動で体温調節してくれるから
日常生活も
スポーツも安心



誰もが大会観戦に参加できる
新しいコミュニケーション技術

Scene1 街の中

多様な人の社会参加を支援する
機器の開発

世界をリードする競技用具で
メダル獲得を強力
バックアップ！



Scene2 競技支援

パラリンピックアスリートの競技を
サポートする機器の開発



トレーニング技術の
進化がアスリートの
潜在能力を引き出す

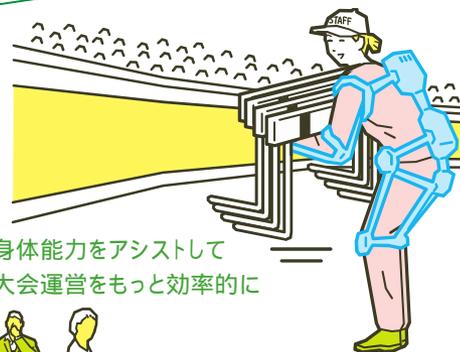
Scene3 競技観戦

大会運営や会場周辺の移動を
サポートする機器の開発



身体能力をアシストして
大会運営をもっと効率的に

センサー付きの自動運転車椅子で
人混みでも安心して移動できる



あくまでイメージ図であり、実際の内容とは異なる場合があります



社会情勢 / 社会課題

移動困難や交通事故リスクで見ると、わが国では総人口の約1/4が広義の交通制約者であると考えられる。

長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピックを一里塚として捉え、国内他地域への展開ならびに海外へのパッケージ輸出を見据えた次世代交通システムを実用化する。

東京大会での役割

交通不便地域である臨海部～都心のアクセスを確保するとともに車いすやベビーカーなど誰もが快適に利用できるユニバーサルな交通インフラを整え、ストレスフリーな大会運営を実現する。

3つの手段

1 ソーシャルインパクト
超高齢社会など世界的課題に対応する交通システムを備えた新たな都市像の提示。

2 大会ホスピタリティ
誰もがストレスフリーに会場ならびに周辺地域を移動できるアクセシビリティを実現。

3 シェアードバリュー
国内の地方都市への展開や海外へのパッケージでの輸出など、新たな産業化を図る。

2020年に向けたコンセプト

Mobility Innovation 2020

次世代都市交通システム

すべての人に優しく、使いやすい移動手段を